

# 令和6年新年の年頭所感

一般社団法人 日本内燃力発電設備協会

会長

平野 正樹

令和6年の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

皆様には、日頃から内発協の業務につきまして格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

令和6年の年頭に当たり、最初に年明けとともに発生した能登半島地震の被災者の皆様に、衷心よりお見舞い申し上げます。関係者の方々のご尽力により一日も早く被災地が復旧し、被災者の皆様が日常の生活を取り戻されることを強く願っております。

当協会におきましては、昨年6月の定時総会で理事会役員が交替し、7月からは政策審議委員会委員の構成も変わり、新たな運営体制がスタートしました。また、当協会運営の要となる専務理事に新たに黒川専務が着任するとともに、新たに総務部長も含めた事務局体制が刷新されました。これを機に当協会の会員会社並びに役職員の一同、心を新たに当協会の社会的使命である自家用発電設備に対する更なる安全性と信頼性の向上を目指して取り組んで参ります。

さて、昨年を振り返りますと、ウクライナにおける戦闘状態が解消されない中、新たにハマスによるイスラエル攻撃が発端となり、パレスチナ自治区ガザでの戦闘が始まりました。歴史的経緯はあると思いますが、異なる宗教・民族を持つ国家・地域間での紛争が絶えません。令和5年のG20サミット議長国を務めたインドのモディ首相は、多国籍主義の重要性を訴えています。一日も早い紛争終結を祈っております。

我が国は、紛争という意味では平和な時代が継続しており安心して生活できる国であります。自然災害については、毎年のように水害や地震による災害が発生しています。災害時に電力の安定供給に貢献する非常用の自家用発電設備の重要性を再認識するところではありますが、昨年発生した水害や地震時においても自家用発電設備が着実に起動し、非常用電源としての役割を果たしていることが報告されております。

当協会としては、引き続き災害対策能力の強化に



寄与する自家用発電設備の更なる普及とその品質向上に努めて参りたいと思います。

新型コロナ感染問題が落ち着きをみせた昨年におきましては、当協会では公式行事として1月の新年賀詞交歓会に始まり、6月の通常総会、10月には神戸における理事会及び政策審議委員会の合同会議が開催されました。会員各社をはじめとして自家発電業界関連の関係者の皆様との交流も予定どおり実施することができました。

令和6年も公式行事等を通じ、皆様方への積極的な情報提供や交流を進めるとともに、皆様方からのご要望に応えつつ、当協会各事業の更なる充実化を図りたいと存じます。引き続き時代の変化に的確に対応した積極的な事業展開に努めてまいりますので、一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

結びに、先行き不透明な時代ではございますが、本年が皆様にとって明るい未来への希望が持てる一年となりますことを心からお祈り申し上げます。会員各社の益々のご発展と皆様方のご健勝を祈念し、新年のご挨拶といたします。